

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第6号（果樹）



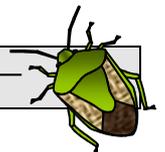
令和2年8月7日発表 広島県西部農業技術指導所
対象期間 令和2年8月7日～9月中旬
※次回の予報は9月18日頃です。

もくじ

- 1 果樹カメムシ類の発生状況 …P1
- 2-(1) かんきつ病害虫の現況と予報（概要） …P2
- 2-(2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細） …P3～5
- 3 気象状況 …P6
- 4 お知らせ …P6

※かんきつ地帯は南部を以下の通りに区分
けしています。
西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以東の沿岸島しょ部

1 果樹全般 —果樹カメムシの発生に注意しましょう—



広島県では、6月12日付で果樹カメムシ類に関する注意報を発表しています。

県内のチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップへの累積誘殺数（5月第1～7月第6半旬）は、5地点中4地点で「多」～「やや多」となっています（表1）。

表1. 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1～7月第6半旬）単位：頭

調査地点	本年	現況	平年 ^{※1}	多発年 ^{※2}	多発年以外 ^{※3}
東広島市安芸津町	1009.7	並 ^{※4}	725.4	1657.2	326.0
福山市神辺町	234.2	多	98.9	135.6	83.2
世羅郡世羅町	430.7	やや多	563.9	1926.1	174.7
庄原市東城町	237.0	やや多	158.1	426.0	43.3
庄原市高野町	387.0	やや多	330.4	1034.3	22.1

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を表しています。

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成22, 24, 26年）の平均値を表しています

※3 多発年以外とは、平成22年以降で、平成22, 24, 26年を除いた年の平均値を表しています

※4 過去10年間で4番目に多い誘殺数であるため「並」と判定しましたが、「やや多」判定に近い値です。

8月5日に実施した県内5か所における被害果調査（なし、りんご）の結果、被害果数が過去10年間で3番目に多い状況となっています。

誘殺状況など今後の情報に注意するとともに、ほ場内をよく見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。

※ 最新の調査データは、広島県のホームページをご覧ください（本予報 P.6 の4 お知らせを参照）。

2-(1) かんきつ病害虫の現況と予報(概要) 8月3日~5日調査

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項(防除時期)
黒点病 ^{注)}	ウンシュウ ネーブル	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 防除間隔は長くても1ヶ月以内とする。また前回防除してからの降水量が250mmを超えたら追加防除する。 ◆ 樹上の枯れ枝および園内の剪定枝は伝染源となるため除去し、園外で処分する。
	レモン	やや多		
かいよう病		並	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 台風等強風雨前の防除を徹底する。 ◆ ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除する。 ◆ 発生源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、圃場から持ち出す。 ◆ 窒素肥料を多施用すると、夏期以降に新芽の発生が増え、感染を助長するため、肥培管理を適切に行う。
ミカンハダニ		やや多 ※一部で発生	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 8月以降に発生すると、果実の外観品質を損なうので、基幹防除を徹底する。 ◆ 薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。 ◆ 抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。 ◆ 多発園は防除の徹底を図る。
ミカンザビダニ		並 ※一部で発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 特に裾なり、内なり等、薬剤のかかりにくい位置にある果実での発生に注意する。 ◆ 薬剤に対する感受性低下を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。
ナシマルカイガラムシ		やや少 ※一部で発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 孵化幼虫時期に薬剤散布を行うと効果が高い。 ◆ 発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月中旬までに防除を行う。
ヤノネカイガラムシ		並 ※一部で発生	並	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発生が見られるほ場では、第2世代幼虫期の8月中下旬に防除を行う。 ◆ 移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺する。
イセリアカイガラムシ		並 ※発生なし	並	
チャノキロアザミウマ		—	—	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 第5世代、第6世代の発生ピークは、気温が平年並みに推移した場合、それぞれ8月19日、9月6日と予測される。 ◆ 発生ピーク予測日の7日前~発生ピーク当日の防除が、効果が高いとされている。

注) レモン・ネーブルの黒点病は、平成26年から調査を開始している。ネーブルでは過去6年間で4番目に高い数値となったため「並」、レモンでは過去6年間で2番目に高い数値となったため「やや多」と判定した。

2-(2) かんきつ病害虫の現況と予報 (詳細)

黒点病



現況
ウンシュウ・ネーブル：並 レモン：やや多
予報
並

予報の根拠

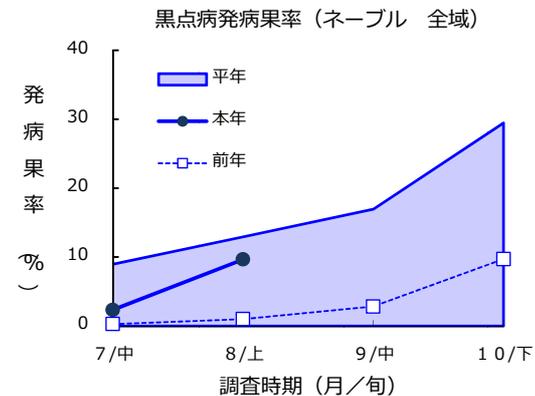
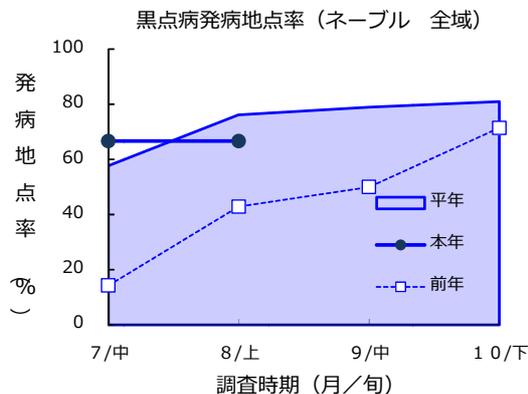
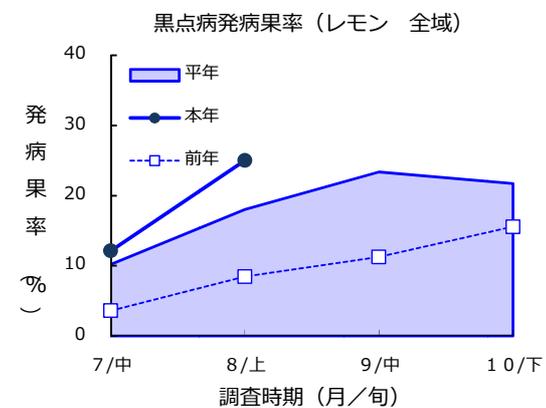
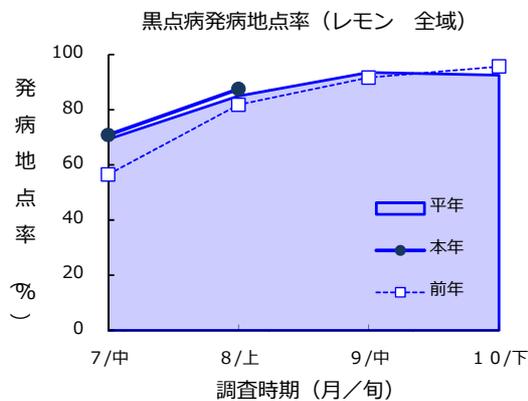
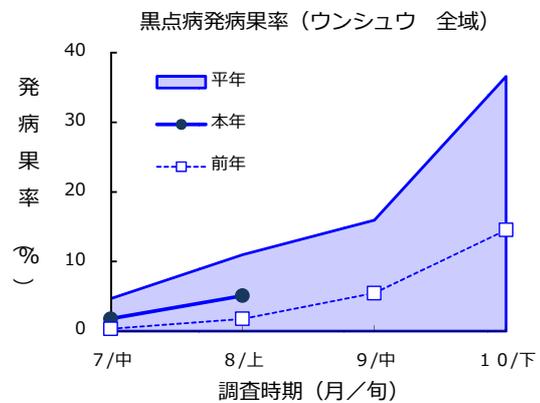
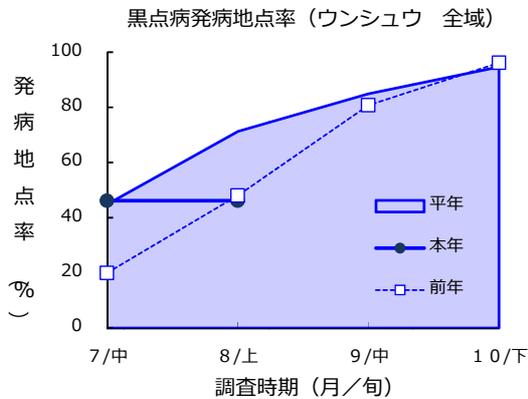
(+)：多発要因, (±)：平年並み, (-)：少発要因

- ◆ 巡回調査では、ウンシュウ、ネーブルは平年並であったが、レモンでは平年よりやや多い発生であった(+)。
- ◆ 向こう1か月の降水量は、少ない確率が40%、平年並み及び多い確率が30%と予想されている(-)。

【防除上の注意事項】

- ◆ 防除間隔は長くても1ヶ月以内とする。また、前回防除以降、累積降水量が250mmを超えたら追加防除を行う。

【巡回調査データ】



(注) レモン、ネーブルの平年値は平成26年からの6年間のデータ

かいよう病

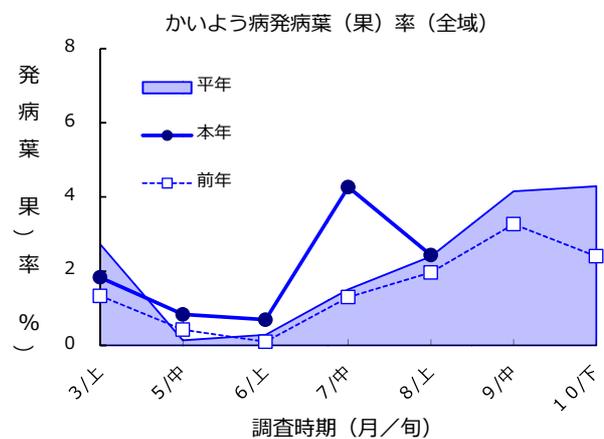
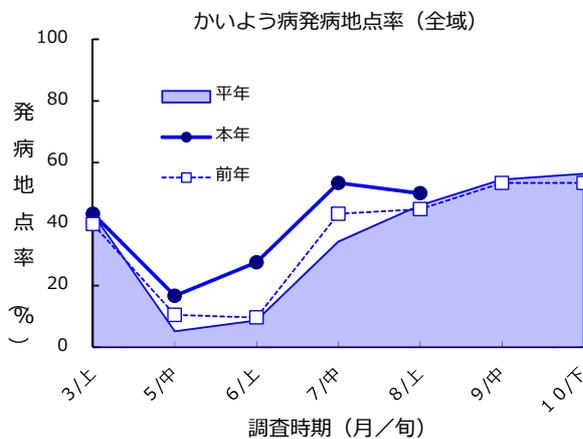


現況	予報の根拠	(+) : 多発要因, (±) : 平年並み, (-) : 少発要因
並	◆巡回調査では, 平年よりやや多い発生であった(+) ◆向こう1か月の降水量は, 少ない確率が40%, 平年並みおよび多い確率が30%と予想されている(-)。	
予報		
並		

【防除上の注意事項】

- ◆ ネーブル, レモン, 「はるみ」などの品種は発病しやすいので注意する。
- ◆ 罹病した枝葉および果実 は伝染源となるので, 速やかに除去し, 圃場外に持ち出すとともに, 基幹防除を徹底する。
- ◆ 夏秋梢処理や, ミカンハモグリガの食害痕のある枝の切除を行う。

【巡回調査データ】



(注) レモン, ネーブルで調査

※調査対象部位は, 3月/上; 旧葉, 5月/中~7月/中; 新葉, 8月/上~; 果実

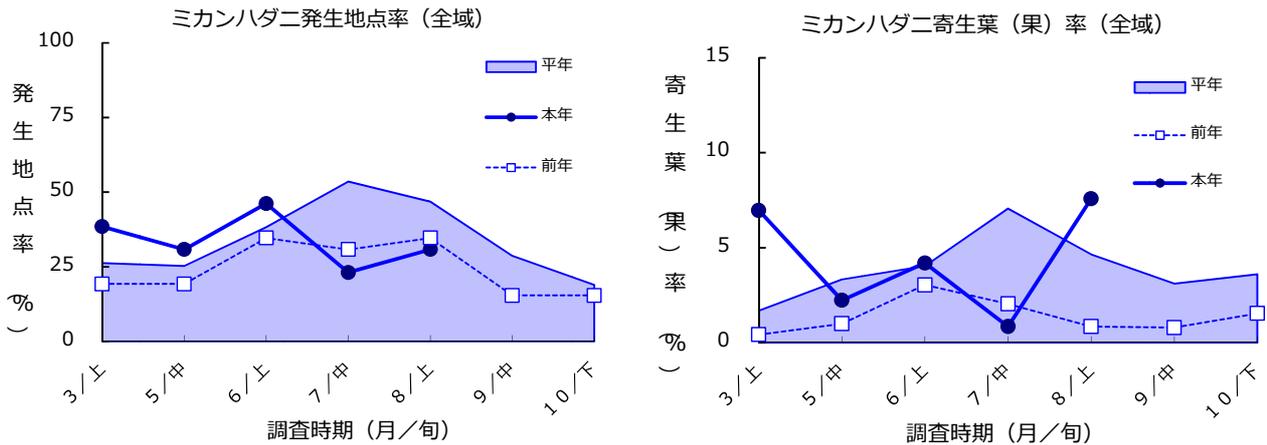
【発生量について】

「予報」「現況」は, 「多, やや多, 並, やや少, 少」の5階級に区分しています。区分の方法は, 原則として, 過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ, 相対比較しています。

- 「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」 : 2~3番目と同程度
- 「並」 : 4~7番目と同程度
- 「やや少」 : 8~9番目と同程度
- 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下

<h2>ミカンハダニ</h2> 	現況	予報の根拠	(+) : 多発要因, (±) : 平年並み, (-) : 少発要因
	やや多	◆巡回調査では, 平年よりやや多い発生であった(+). ◆向こう1か月の降水量は, 少ない確率が40%, 平年並みおよび多い確率が30%と予想されている(±). ◆向こう1か月の気温は, 高い確率が70%と予想されている(+).	
	予報		やや多

【巡回調査データ】



(注) 調査対象部位は, 3月/上; 旧葉, 5月/中~7月/中; 新葉, 8月/上~; 果実

チャノキイロアザミウマ



チャノキイロアザミウマは, 防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり, かんきつ園に飛来する。果皮を加害されると外観が著しく悪化する。この虫は, 気温の推移から成虫の発生が多くなる時期(発生ピーク)を予測することが可能である。防除適期は, 発生ピークの7日前~ピーク当日が効果的であることが分かっている。

例年被害がみられるほ場では表2を参考に, 発生時期に合わせた防除を行う。

表2. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日(生口島アメダスデータに基づく)

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第5世代	第6世代
平年より高い(+1℃)	8月18日	9月5日
平年並	8月19日	9月6日
平年より低い(-1℃)	8月20日	9月9日

3 向こう1か月の気象情報

中国地方1か月予報

(広島地方気象台8月6日発表, 8月8日から9月7日までの天候見通し)

- ・ 平年に比べて晴れの日が多いでしょう(図1)。
- ・ 向こう1か月の平均気温は, 高い確率が70%です。日照時間は, 平年並みまたは多い確率ともに40%です(図1)。
- ・ 週別の気温は, 1週目は, 高い確率が50%です。2週目は, 高い確率が60%です。3~4週目は, 高い確率が50%です(図2)。

図1 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

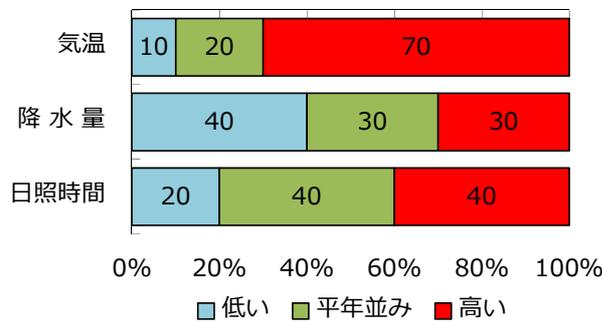
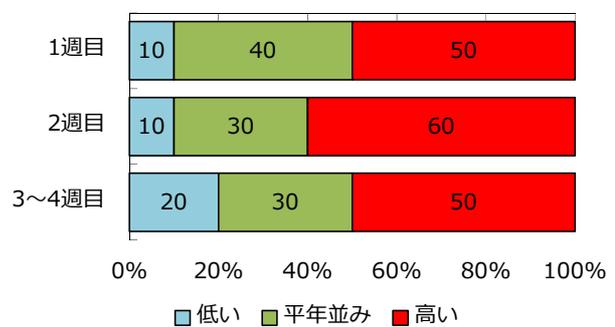


図2 向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)



4 お知らせ

病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは, 広島県ホームページで閲覧できます。

広島県 ひろしま農業情報

検索

掲載アドレス→ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

広島県では, 6月1日から8月31日までの3か月間を農薬危害防止重点期間と定めています。農薬を使用する際は, ラベル表示を十分に確認して使用方法や注意事項を守り, 農薬による危害と事故を防ぎましょう。

広島県 農薬危害防止運動

検索

掲載アドレス→ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

今回の病害虫発生予察情報に関するお問い合わせ先
 広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
 〒739-0151 東広島市八本松町原 6869
 電話: 082-420-9662 (直通)